

英米文化学会会報

第 46 号

平成 13 年 2 月 16 日版



学会ホームページのテーマ画像

目次

- 英米文化学会第105 回例会開催のお知らせ(発表要旨)
- 電子図書館サービスに加入が決定しました
- 重要!! 論文の著作権についての告知
- 英米文化学会にも IT 革命の波
- 英米文化学会が『学会名鑑』に掲載
- 平成 13 年度の学会暦決定
- 学会刊行物の無料配布について
- 事務局からのお知らせ

英米文化学会第105 回例会開催のお知らせ

標記の会を下記の要領で開催します。万障お繰り合わせの上、ご出席ください。

開催年月日：平成 13 年 3 月 10 日(土)2 階第 5 講堂

場 所：日本大学歯学部 3 号館 2 階第 5 講堂(お茶の水駅下車ニコライ堂至近)

総会：発表終了後に同じ場所にて総会を開催いたします。今回は、理事の改選などもありますので、ご参加をお願いいたします。

懇親会：前回から、参加者の負担を軽減すべく、会費 2,000 円！で 5 時半より 6 階の実習室にて行います。会場は、同じ校舎の 6 階となります。懇親会のみへの参加も歓迎いたします。今回はピザ等も注文しようかと思えます。

研究発表

1. バイヤットの'female vision' 迫 桂 (学習院大学大学院)
司会 吉田 俊実(東京工科大学)
2. 私って何? ——ハムレットとヴァイオラの自己探求 大久 珠緒(城西大学)
司会 石塚 倫子(那須大学)
3. From Japan Thru Young Eyes To Web-Watching the World 渡辺 節子(SHE Ltd/神田外語大学)
司会 木村 みどり(青山学院大学)

研究発表レジュメ

1. バイヤットの'female vision'

迫 桂

バイヤットは、処女作 *The Shadow in the Sun* (1964) のペーパーバック版(1991)に Introduction を加筆した。そこで彼女は、従来の'female visionaries'のイメージを「哀れで気の狂った、食べ物にされる預言者もしくはニシキヘビ(のような存在)」と表現し、彼女の著作活動はそれに代わる'female vision'の模索探求であったと述べた。また *Babel Tower* (1996) では、結婚に失敗したヒロインが、E.M.Forster の'Only Connect'の可能性を信じた自分は愚かだったと自嘲する。本発表では、バイヤットのいう'female vision'を、女性特有の Only Connect の試みと関係させて作品を論ずる。

バイヤットの'female vision'の特徴は、文学(本・言葉)を中心とした知的活動・思考への執拗なこだわりであり、これが女性の日常と芸術、肉体と精神の Only Connect を阻み、作品中のヒロインたちを孤立させている。最後に、バイヤットの Only Connect への傾倒は、別のフェミニズム的視点からの批判を免れないことを指摘し、バイヤットの理想とする'female vision'が果たして作品中に実現されているのかどうかを考察する。

2. 私って何? ハムレットとヴァイオラの自己探求 大久 珠緒

『オセロ』のイアーゴと『十二夜』のヴァイオラは"I am not what I am."と、同じ台詞を口にする。だが、この二人の「本当の私」はまったく異なる。イアーゴはオセロを陥れるための計算を重ねた上での「今の私」を作るが、ヴァイオラは自分を追い込むような状況で「今の私」を演じなければならない。ヴァイオラに酷似した状況は、父親の復讐を果たすための佯狂のハムレットにも当てはまる。とくにヴァイオラは、女性でありながら男性の役割を果たすために、ハムレットよりもさらに複雑な構造の上にいる。また、"I am not what I am."は、舞台上の俳優そのものでもあり、メタシアターな響きを持っている。本発表では、双方とも1600年頃と近接した時期の作品であり、酷似した状況のキャラクターでありながら、悲劇と喜劇になった『ハムレット』と『十二夜』を取り上げ、ハムレットとヴァイオラの「今の私」と「本当の私」の相違や、男性でありながら女性を演じた少年俳優の存在を考える。

3. From Japan Thru Young Eyes To Web-Watching the World 渡辺 節子

1997年秋、バイリンガルの日本文化発信サイト *Japan Thru Young Eyes* (<http://www.shejapan.com>) を開設し、学生に task-based approach で記事を作成させた。作成したサイトを利用しての学生主導の英語授業を試みた。さらに、上述サイトの読者をつのって、英語教材 *Web-Watching the World* (インターネットで世界旅行) をサイバースペース上で作成した。上記テキストを授業で使用し、教師への on-line support を試みた。

3年余のインターネットを使った英語教育の挑戦と将来への展望を次の順序で語る..

1. 発信型国際理解教育の意図・方法・題材
2. 発信型英語教育法による日本文化紹介(冊子とwebsite)
3. 指導者が発信する補助教材(旅のスケッチ・海外旅行の会話)
4. インターネットと「Web-Watching the World」の併用授業

5. インターネット併用授業の効果と問題点
6. 今後のインターネット併用の英語教育の方向

電子図書館サービスに加入が決定しました

平成9年4月から公開されております、国立情報学研究所電子図書館サービス(NACSIS-ELS = Electronic Library Service) <http://www.nii.ac.jp/els/els-j.html> に英米文化学会は加入することが決まりました。電子図書館サービスは、研究者が研究を進める上で不可欠な、学協会の発行する学術雑誌の論文を採録して研究者に提供しています。このサービスは、論文のタイトル、著者名、抄録などを検索情報としてデータベース化している他、学術雑誌のページをそのまま画像データとしてデータベース化し、インターネット上で提供しています。このサービスを利用すると、御自分のワークステーションやパソコンを使って、学術論文のタイトルや著者名などのキーワードから検索することができ、論文のページがそのまま画面に表示されるため、雑誌を読む感覚でページをめくることができます。また、高品質な印刷出力も可能となっています。今までは雑誌論文は、図書館へ行って読んだりコピーをとったり、あるいは他の図書館から取り寄せたりしなければならなかったのですが、この電子図書館サービスを利用すると、よりいっそう迅速・簡単に入手することができます。これが本格的にスタートすることにより、

- 1) 今までの『英米文化』の全論文(本文も含む)をオンラインで読むことが可能となる。
- 2) 今まで、専任教員のみアクセスが可能であった、いわゆる旧「学情」のシステムに、非常勤ステータスの会員も、英米文化学会の正会員であれば、まったく同じように登録して、電子図書館の情報を読むことができる。
- 3) 将来的には、紙を使わずに電子図書館へのアップロードが完了した時点で、英米文化学会における出版が行われたものと見なすことも可能となる。

などのメリットが考えられます。この春から加入の話し合いを進める予定でおります。今後の進行状況をメールにてご報告いたします。

重要!! 論文の著作権についての告知

電子図書館サービス加入にあたり、会員からの投稿に拠る『英米文化』掲載論文について、著作権は学会に帰属していることが加入条件となります。つきましては、今までの掲載論文の著作権が学会に帰属する点について茲に会員に告知をいたします。ご自分の論文の著作権が学会に帰属することに異論のある方は、3月31日までに、掲載論文の書誌事項などを添付して、学会事務局まで文書にてお申し越してください。電子図書館サービスへの掲載を差し止めます。その場合、次号よりの掲載論文は、すべて電子図書館に登録となりますので、今後は学会誌への投稿はご遠慮いただきます。転載などについては従前通りに、学会への連絡のみで可となります。

英米文化学会にも IT 革命の波

昨年末にて、電子メールで連絡が可能な会員が過半数(143名 平成13年2月12日現在)を越えました。電子図書館などのサービスが、IT革命とやらで活発になりそうですね。電子図書館以外、当学会ではまだ対応できませんが、ネットワーク上での、投稿、レフェリーイング、校正、出版などのシステムも稼働を開始しています。国際的にも学術情報はすべてオンライン化するようですので、会員の方々には以下の点にご配慮いただき、ご準備をお願いいたします。

- 1) インターネット接続環境の整備
 - ・インターネットに接続して、ページを閲覧できる
 - ・インターネットに接続して、電子メールが送受信できる

以上2つの項目についてのご準備が必要かと思えます。後になればなるほど高性能の電算機は出てきておりますが、ワープロ、表計算、インターネットなどの作業には、現在の電算

機でも充分すぎるくらいの能力があります。先に買って使い方のノウハウを得る方が得になるのは明白です。

もちろん電算機を購入せずとも、電子メールや所謂インターネットのページ閲覧は可能です。お近くの、または、通勤時によく通過する、新宿、渋谷、池袋などの主要駅周辺には、雨後の筍のごとく、インターネットカフェなどができております。入場後 1 時間接続して 350 円から 500 円、または純粹従量制で 1 分約 9 円でインターネットに接続できます。メールが到着しているか確認して、返事を書いても 10 分あれば充分でしょうから、例えば渋谷の NECCA ネットカ (電話 03-5728-2561) などのように、従量制でかつ初心者にも親切に指導してくれたりするカフェもあります。思い切って、無料のメールアドレスが必要なのだがと相談してみても如何でしょうか?週に二、三度のメール確認なら殆どお金もかかりませんね。メールアドレスを取得されましたら、事務局佐藤治夫 shakey23@tky.3web.ne.jp までメールをください。

2) 『英米文化』への投稿論文についてキーワードが必要になります。

多くの分野で、現在常識となっております、論文にキーワード(3個から5個)を添付することが、今後の『英米文化』出版でも求められることとなります。

また、過去の論文についても、キーワードが必要になる場合も考えられるため、ご準備をお願いします。キーワードは、論文を検索するときに必要な検索語とお考えください。特定の論文を特徴付けている語句ですので、「英文学」「米文学」「教育学」などの分野を示す語句はキーワードにしても、誰もそれを使って検索しませんからあまり意味がないのです。だからといって、特定の登場人物が使用している葉巻のブランドなどは、話の筋に直接に関わらない場合は「細かすぎる」ので無用でしょう。この両者の中間だとお考えください。

英米文化学会が『学会名鑑』に掲載

最近発売になりました、『学会名鑑』に、英米文化学会が掲載されております。日本学術会議の協力団体のひとつとして扱われております。就職、昇格などで所属学会の「身分」を証明するのに必要となることもあるようです。学会事務局でも一部購入してあります。

平成 13 年度の学会暦決定

平成 13 年度の学会活動予定が決定しました。(ホームページでは <http://www.osk.3web.ne.jp/~shakey23/h13.html> にて常時ごらんになれます。)

第 106 回例会	6 月 9 日	(4 月 9 日)
第 19 回大会	9 月 8 日	(4 月 9 日)
第 107 回例会	11 月 17 日	(9 月 17 日)
第 108 回例会	平成 14 年 3 月 9 日	(平成 14 年 1 月 9 日)

会報投稿締切 47 号=5 月 9 日 48 号=7 月 8 日 49 号=10 月 9 日 50 号=平成 14 年 2 月 1 日
会誌『英米文化』投稿締切 平成 13 年 10 月 31 日
() 内の日付は、発表申し込み締切。

学会刊行物の無料配布について

英米文化学会では、学会編訳のうち、残部のある限りの刊行物を会員に無料で配布しております。現在、残部がある刊行物は、英米文化学会 30 周年記念誌「あゆみ」、ブラッドベリ「現代アメリカ小説・下」、「シェイクスピアの変容力」の三作品です。インターネット経由などでの入会後に例大会に参加がない会員には、お渡しできる機会がありませんので、お手元にないと思います。郵送は致しませんので、例大会時以外に、佐藤治夫までご連絡をください。ご来室いただければ差し上げます。先着順ですので、残部が無くなった時点で終了となります。

事務局からのお知らせ

会員の動き（ウェブ版では省略）

新入会員（入会順）

住所変更（新住所）

留学

ファックス誤配のお詫びと情報配信の中止

インターネット経由でなく、ファックスのみお持ちの会員にも情報提供をという趣旨にて、昨年末にファックスを送信いたしましたところ、3通づつ（多い方は、紙のジャムなどのエラーメッセージを受けたことによる再送信も含めて5通）送信されてしまいました。当方は、電子メール・ツー・ファックスサービスにて、電子メールの宛先に書き入れた会員のファックス番号にファックスを配信するようになっておりました。調べていただきましたら、当方の使用しているプロバイダから、同じタイムスタンプの電子メールが何と3通もファックス送信の会社に転送されておりました。原因は不明とのことでした。多数の方々へのファックス送信には時間がかかるものですから、紙詰まりなどのエラーメッセージを受け取ったなどして再送信指示が入った場合は、更に電算機上で送信順位が後回しにということで、午前零時を過ぎてもファックスの電話が鳴った場合もありまして、誠に申し訳ありませんでした。茲に謹んでお詫びします。以上のような事故がありましたので、原因が解明されるまでファックスにての情報提供は中止とさせていただきます。同一の電子メールを3通受け取った会員の方も以上の理由でありました。茲に謹んでお詫びします。

会報の白黒化のお知らせ

長らくカラープリンタにて打ち出した、カラーの会報をお届けしてまいりましたが、会員数が増加してしまい、印刷部数が270部にも達しております。A4版2枚の裏表にカラープリンタで印刷するのも限界が見えて参りました。学会のホームページでの公開部分の会報は、これからもカラーにて掲載してゆく予定ですが、郵送する会報は、今回より白黒にさせていただきます。

英米文化学会会報 第46号 編集・発行：英米文化学会編集委員会 = 池田 広子、小川 喜正、
岸山 睦、中村 豪、山根 正弘

発行責任者： 中村 豪 〒363-0027 埼玉県桶川市川田谷2509-12 048-787-4693

年会費等振込先：郵便振替 加入者名 英米文化学会 口座番号 00160-7-611777

問い合わせ先 英米文化学会事務局 佐藤治夫 03-3219-8160 ファックス 03-5204-8787

E-mail: shakey23@tky.3web.ne.jp 学会ホームページ <http://www.osk.3web.ne.jp/~shakey23/indexj.html>